

二〇〇五年度三学年現代文 一学期期末考査

この問題用紙はとじて保存すること。(とじていない場合はファイル提出不合格となる。)

字は丁寧に書くこと。極端なくせ字、汚い字、読みとれない字の場合は減点の対象になる。

漢字を使うこと。常用漢字を書かない場合、減点の対象になる。

文章を書くときには句読点「。」や「、」を絶対に忘れないこと。ついてない場合は減点の対象になる。

本日ファイル提出です。テスト前に配布した一学期成績集計用紙に必要事項を記入の上、一番上に綴じて(問題用紙はその下に綴じる)、進路指導室前廊下のクラス指定されたダンボール箱に入れておくこと。

次の文章について後の問いに答えなさい。

人間に本能的恐怖なるものが存在するかどうかは知らないが、人間が感じる恐怖のほとんどは自我にかかわるものである。すなわち、人間は自我に組み込めないもの、自我の安定を乱すもの、自我を崩壊させる危険のあるものを恐れる。したがって、人間の感じる恐怖は必ずしも現実の危険に対応していない。

人間のもっとも大きな恐怖の一つである死の恐怖を考えてみよう。動物だって、自分より強い他の動物が襲いかかってきたというような現実(セマタ)に差し向けて死の危険に恐怖を感じて必死に逃げるであろうが、動物は死そのものには恐怖をもっていないであろう。

人間は、現実は何の危険も差し迫っていないくても、自分がいつかは死ぬであろうことを恐れる。たいていの人間にとって、死とは自我の崩壊どころか消滅を意味するからである。

したがって、この構造を変えることができれば、死の恐怖を軽減することができるわけである。自我の安定を乱すものとは自我から() いるものであるから、同じことでも自我に() しまえば、恐怖ではなくなる。「武士道と云ふは死ぬことと見付けたり」というわけで、死を武士たる自分の自我の構成要素にしまえば、もはや死はそれほど恐ろしくないであろう。そして、勇敢に戦い、名誉を守って立派に死ぬということを自我の() いれば、名誉を失って見苦しく生きることこそ自我を() から、そのほうを死より恐れるであろう。現代のように、

死から眼をそらす傾向が強い時代は、現実には死の可能性に直面したときの死の恐怖はいやが上にも強まると

思われる。

人間は必ずしも、危険なこと、いやなこと、苦痛なこと、不幸なこと、好ましくないことだけを恐れるわけではない。何の害もないことでも恐ろしいことは恐ろしい。(ア) ひとえに 自我の安定が問題なのである。たとえば、(イ) 愛猫家 が非常にかわいがっていた猫が死んだとする。彼が嘆き悲しんでいると、数日後の真夜中に、彼が一人でいる部屋に死んだはずの猫が現れ、彼にすり寄ってきた。しばらくすると猫は、扉の閉まっている部屋からどこへともなく姿を消し、また数日後の真夜中に現れる。そのようなことが繰り返されると、彼は恐怖のあまり発狂するかもしれない。猫は彼に何の害も与えるわけではない。昔の通り、かわいらしいことしかない。彼はなぜ恐れるのか。死んだ生き物は生き返らないという世界の法則が(ウ) 覆 されるからである。なぜ、世界の法則が覆されることが恐ろしいのか。一定の法則にもとづく安定した(エ) チツジヨ をもつ世界のなかに存在しているということ、はじめて自我の安定があるからである。世界のチツジヨが崩れると自我の安定も崩れるからである。そもそも、人間が神を發明したり、科学を創つたりして世界の成り立ちをあれこれ説明するのは、自我の足場であるこの世界が、人間の理解し、(カ) ナットク できる一定の法則に支配されていると信じていなければ、不安で恐ろしくて生きてゆけないからである。われわれの理解を越えた新しい現象や奇妙な事件が起きると、われわれが必死になってその説明を求めるのは、不安と恐怖から逃れるためである。

以上のことから、恐怖心の強い人、怖がり屋とはどういう人かということがわかるであろう。彼らは、自

我を狭く固め、自我から多くのものを排除し、(イ)抑圧している人である。排除され、抑圧されている要素が絶えず意識へと出てこようとし、自我を(ニ)脅かす。あるいは、その要素が外界に(三)トウエイされ、何らかの外的対象と結びつき、恐怖症におけるように、外界に存在するいろいろなもの、人間、幽霊、動物、刃物、乗り物、高所などが恐ろしく見えてくる。

最初に形成される自我は、ナルチシズムに支えられた(ウ)誇大妄想的自我であるが、このような 幼見的な自我の形に(ニ)ニコシユウし、その後成長過程で自我に組み込まなければならない多くの要素を排除している人は、自分を重んじてくれることがわかつている身近な人以外の人を恐れるであろう。見知らぬ人は当然のことながら、彼をその辺のありふれたただの人としてしか扱わないので、見知らぬ人と接すると、彼は彼が否認している現実の姿を突きつけられ、(ニ)己憫れた自我が崩れるからである。自分のもつ攻撃的傾向を抑圧している人は、それを他人にトウエイして他人を実際以上に()と感じ、恐れる必要のないときでも恐れるであろう。

怖いもの見たさということがあるが、このことも同じように説明できる。多くの要素を排除して狭く固めれば固めるほど自我は安定するが(もちろん、(エ)主観的、一時的安定に過ぎないが)、同時に、自我はますます貧困になり、干からび、耐えがたく退屈になる。この退屈から解放されるためには、排除した要素を探り入れて自我を豊かにする必要がある。しかし、それは狭く固まった自我を崩すことでもあるので、不安な恐ろしいことである。

この人生でわれわれは退屈するか不安な恐ろしい目に遭うかの二者(ニ)タクイツにつねに直面しているのである。退屈しないでかつ安定しているという時間をもつことは不可能なのである。それが自我というものをつくりあげた人間の宿命である。不安な恐ろしい目に遭うのはたしかに苦痛であるが、退屈もまた苦痛であって、ときにわれわれは、後者の苦痛から(三)逃れるために前者の苦痛を選ぶ。この苦痛を選んでみると、自我の殻が打ち破られ、新しい世界が開けてき、爽快感があつて、苦痛のなかのこの快感もまた捨てがたい。しかし、他方には不安と恐怖から逃れたい気

持ちも強いので、またふたたびもとの安定した状態に戻るわけであるが、退屈の苦痛に追つかけて、またふたたび解放の快感を求めはじめ。怖いもの見たさというのは、そういうことである。あえて危険なことに(ニ)イドム冒険とはそういうことである。

問一、——部(三)(二)の漢字はその読みを、カタカナは、漢字に直して記しなさい。(漢字に直す時に送り仮名がある場合、それも記すこと。)

問二、——部(ア)(エ)の語句を文脈に合うように、別の表現で言い換えなさい。

問三、——部「人間の感じる恐怖は必ずしも現実の危険に対応していない」とあるが、次の危険のうち、「現実の危険に対応している」ものには「A」と、「現実の危険に対応していない」ものには「B」と記しなさい。

(ア) 漠然と死を恐れる。

(イ) 自分より強い猛獣が襲いかかってきたときの恐怖。

(ウ) 武士道において、逃げ腰になり、正々堂々と戦えないことに対する恐怖。

問四、——部「動物は死そのものには恐怖をもっていないである」とあるが、「死そのものに恐怖を持つ」とはどういう意味なのか。文中より抜き出す形で答えなさい。

問五、() () () () に入る語を次から選り記号で答えなさい。

- (ア) 支えとして (イ) 組み込んで
(ウ) 排除されて (エ) 崩壊させる

問六、——部「現代のように、死から眼をそらす傾向が強い時代」とあるが、現代において「死から目をそらす傾向」はどんなところに現れているか。一例を挙げなさい。

問七、――部 「人間が神を発明したり、科学を創った」理由を著者は何と説明しているか。次の文の空欄に当てはまる漢字二字を記しなさい。

自我を（ ）させるため。

問八、――部 「何らかの外的対象」の具体例を一例、文中より抜き出しなさい。

問九、――部 「幼児的な自我」とあるが、最初に形成される自我のどんな部分が「幼児的」なのか、簡潔に説明しなさい。

問十、――部 「彼」とは誰か。次から一つ選び記号で答えなさい。

- (ア) 多くの要素を排除している人
- (イ) 自分を重んじてくれる人
- (ウ) 見知らぬ人
- (エ) その辺のありふれたただの人

問十一、（ ）に入る漢字三文字を記しなさい。

問十二、――部 「この苦痛」とはどんな苦痛か。解答欄に合うように具体的に13字以内で記しなさい。

問十三、次の 〃 の文章の内容が問題文の内容に合っている場合は「〃」を、違っている場合は「×」を解答欄に記しなさい。

恐怖心の強い人は、自分の外にある「恐怖」をたくさん自我に組み込んでいくために、どんどん恐怖の対象が多くなる。

成長とともにたくさんものを自我に組み込むと、外的要素からの恐れは少なくなっていく。

自分の内面のある部分を隠したい、無視したいと思っている人は、そのある部分を自分以外のものに見つけてしまい、それを恐れてしまう。

自我が貧困になると安定するが退屈になり、退屈からの解放を求めて自我に様々なものを取り入れようとするると、不安になる。

問十四、次の恐怖のうち一つを選び、「自我の崩壊の危険性」と関連させて（恐怖と「自我の崩壊の危険性」をつなげて）その恐怖の原因を100字以内で説明しなさい。

- (ア) 自動車に乗っていて、人をひきそうになった時の恐怖
- (イ) 真夜中一人で家にいた時に、突然どこから声が聞こえてきたときの恐怖
- (ウ) 苦手意識のある人から突然怒鳴られた時の恐怖

次の言語についての問題に答えなさい。

問一、解答用紙にある各表現の間違い部分に傍線を引き、（ ）に正しいものを記しなさい。間違いない場合は（ ）に「〃」と記しなさい。

問二、解答用紙にある漢字はどこか間違っている。解答欄に正しい漢字を直しなさい。間違っていない場合は解答欄に 〃と記すこと。